

つちやよしき

キーワードとして数学的思考についていくつか用意していたが、表現方法にひっかかってしまった。
また、話の流れを前後させた時に迷子になることがあった。

新谷

やりたい放題してしまった。3人でプレゼンの流れをもう少し練習すべきだと感じた。今回のプレゼンを通して、簡素でわかりやすい説明を心がけたいと思った。

棗田進太郎

初めて考える、の2回目のプレゼンということで多少のかぶりの場面もあるのかなと思っていたが僕たちとは違ったアプローチの仕方でとても面白い90分だった。大喜利って難しい。でも結構楽しかった

三木美裕理

今回のプレゼンで考えるという意味をさらに深く知ることができた。私は網羅思考で考えがちなので、考えるって難しいなと思った。

崎山綾香

「考える」とは何なのか普段あまり意識していなかったのが、今回のプレゼンは深く考えさせられる良い機会になった。

清水陸人

網羅思考と結びつけて考えるのは、なるほどなと思いました。普段、大喜利はすることないので、やはり難しいなと思いました。とても楽しかったです。またしたいなと思いました

川端 真由

前回のプレゼンと違った角度の内容で面白かった。
大喜利の答えをを論理的に考えてみようと思ったが難しかった。

増田光樹

質問の解釈が難しいところがあったが AI に裁判はできるかの質問の後に以前学んだ仮説思考と照らし合わせて意見が語られていて驚いた。今後のプレゼンの参考にしようと思った。前回と題材は同じでも大喜利など用いて最後まで飽きずに聞けて楽しかった。

中井 美裕

質問が少しわかりにくいものがあったのと話の繋がりをもう少し上手くできたと思った。

高本恭吾

今回のプレゼンの中で AI が裁判官になれるのか、という話をしていた。感情を的確に読み取ることができない AI は、例えば「反省しています」という言葉が、実際には全く反省していなくても、AI は文面だけで反省していると受け取るかもしれない。AI はそういった人間的な部分を解釈できるようになるレベルではないと思うので、網羅思考だけでは片付けられない人間らしさが求められる職業（裁判官、カウンセラー）においては特に、この本での「考える」ということが大切になっているのではないかと思った。

白澤卓也

「考える」の定義を定めるのは難しいなと感じた。仮説思考の話も交えられていて、興味深かった。

金山恵大

考えるという行為は普段意識してやっていないが、大喜利で考えると言う行為を意識させて、わかりやすく実践できて、理解しやすかった。

尾崎星太

「はじめて考える」というテーマから、大喜利が始まった事に驚いた。

また、1 回目と違い、筆者の考えから外れて独自の解釈を加えていて、全体を通して印象的なプレゼンだった。

西川茉里

考えるというキーワードをここまで考えたのは初めてでした。この本はプレゼンするにはまだまだ研究が必要な気がしました。仮説思考など以前学習したものを織り交ぜて話してくれたので興味をもてました。

私自身このプレゼン担当になったらどう話しをしようかなと思って聞いてましたが、結局答えはでてません。とにかく 2 グループの方々はとてもよく頑張ったと思います、よく考えたと思います！！お疲れ様です！！

nakcazawa

西川さんが「この本はプレゼンするにはまだまだ研究が必要な気がしました」と書いてくれていますが、本当にそのとおりで、このテキストの（小さな体には似つかわしくない）豊富な内容の本の一部しか、ゼミでは扱えませんでした。例えば、本文と挿絵がどのような関係にあるのかというテーマだけでも、もう 1 回分、別にプレゼンが作れそうです。ただ、今回のプレゼン担当者は「2 回目はテキストに縛られず、テキストの外に出て、過去のプレゼンと関連付けて・・・」という僕のアドバイスに忠実に作ってくれた気がしていますので、大喜利など工夫に富んだ内容を高く評価したいと思います。

秋学期に入ったら、プレゼン大会の準備に入りますが、その際、このテキストの次の文章を思い出して欲しいと思います。

「学校でやらされていた問題などは、問いのかたちがはっきりしていて、きちんとした答えがあることが保証されたものだった。だけど、ぼくらがしばしば出会う問題はぜんぜんそうじゃない。答えがあるかどうかもしっきりしないし、だいいち、どういう問題なのか、問いのかたちがはっきりしないのだ。」(52-53 ページ)

ブレインストーミングをやりながらプレゼンのテーマを探っている最中、頭の中はまさしくこういうもやもや感に襲われます。しかし、これこそ AI が絶対に体験できない世界であり、その時皆さんは人間らしいクリエイティブな思考の過程にあるということです。2 週たても、3 週たっても、プレゼンのテーマが決まらない。だんだんしんどくなってきて、しばらくそれについて考えるのをやめることにする。数日後、横断歩道で信号が青になるのを待っている時、突然「ヘウレーカ！」 その時にもう一度このテキストを読み返すと、新しい発見があるかもしれませんね。